第４回　福祉のまちづくりモデル地区推進部会　議事録

平成１９年８月２０日　**10:00－11:45　浦和区２階第２会議室**

出席者（敬称略）：　三浦、長根、河合、宮部、望月、國島、徳永、柴崎、小原、守富、上迫田（代理：田熊）
加々美（代理：平沼）

関係団体職員：さいたま市社会福祉協議会　大橋、久保田　さいたま市社会福祉事業団　船戸

事務局：福祉総務課　高瀬、並木、井野

【次第】１　開会
　２　あいさつ
　３　議事等
　　１）仲本小における取組み
　　２）実施体制
　４　閉会

事務局　◇資料確認
　資料１説明（省略）、資料１－２

＜大宮小学校（平沼教頭）の紹介＞

＜モデル地区事業の取り組み＞

三浦　◇夏休み中、児童への課題はあるか。

田熊　◇保護者と外出している時に、福祉について考えながらいろいろな場所で、こうしなければいけないとはしていない。自分たち目で見て感じてという課題は出している。

河合　◇4 年生の理解力が問題となるが、内容の理解はできていると思うが、障害者の種類により対応が違うこと、たとえば、聴覚障害者の場合は後ろからベルを鳴らしてもわからない、知的障害者への対応など、しゃべれない、相手に言われたことがわからない場合などもある。その辺の認識や知識もご指導いただければと思う。

三浦　◇まち歩きの時の障害者への適切な介助は教えられているか。

田熊　◇指導は受けていない、学年担任のみの知識で行なわれているだけである。

船戸　◇これまでが社協が関わっている。当日の擬似体験をされるのはいいことだと思うし、社協が絡んでいてどこかで見せてもらうと、当日が活かされる。絡んでいれば良いが、まったく絡まないで当日を迎えるのは良くない。前に見せていればいいし絡めればと思う。

三浦　◇教えている先生の経験がどのくらいあれば良いが、むしろ知識が無くて本番でギャップを知ってびっくりするということもあるのかもしれないが…。

船戸　◇4 年生なので、ある程度知識はあったほうがまったくないより良いと思う。
先入観はありすぎると良くない。また逆に無いと当日の完成された状態では無いので、当日のギャップはあって良いと思うが、我々と感覚がずれるのであれば、事前に見せてもらい社協より感想をいただいたほうが良い。

河合　◇補聴器を使用する方については、高齢者か聴覚障害者かどちらか。
聴覚障害者の場合は補聴器をつけて会話できるとは限らない。出来る人もいる、自動車の運転免許の場合の会話は条件ではない、皆さんが話しかけてもわからない方がいる。補聴器を使うというのはいろいろなタイプがある。

田熊　◇町内に住んでいるということで話を進めたが、現実にいらっしゃるかどうか又出席していただけるかはわからない状況。

小原　◇最終的な人数はまだ出ていないが、地区社協の会議で促していきたい。民生委員の方が一番良く知っているので声をかけている。しかし仲本地区には高低差があり、移動が大変な地区であり、車いすを使っているのは高齢者、家を出ない人が多い。
頼んでいる人が当日出てくれるかわからない。そこで車椅子、耳の悪い人などは当日参加できなければ、生活の事をメモで良いから出してもらうようお願いしている。資料が集まれば参考になる。自治会・地区社協・民生委員と声をかけている。
車椅子の人はあまり多くない。そういう人は家では車椅子、外出は自家用車という方が多い。もう少し期限までに参集をしてみようと思っている。

宮部　◇地元の方へのお願いは意味があると思う。子供たちもすれ違う相手で、疑似体験できることは良いことであるが。ひとつ大事なことは、障害者や高齢者は大変であるということを自分の疑似体験と当事者をイコールさせて考えては困る。だからこそ一緒に歩いていく中で、ここをどうして変えていくと生活が快適になるかと確認していくことが一番大事であると思う。

望月　◇昨年体験したことであるが、盲人の方で駅へ行くつもりが、反対方向に進んでしまい、その時どういう声をアドバイスできるか、健常者が障害者を見てどういう風に伝えられるかわからない。

そういう点で、一般的な人がどういうアドバイスをしたら良いか、などをこういう中でしっかり体験させられたらと思う。

長根 ◇そういう時は、触れてもらって「どこにいらっしゃるのですか」と声をかけてもらうのが一番いいのではないか。案外そういうときには声をかけてもらうのがいい。視覚障害者の方は地元にいますか。

小原 ◇隣接自治会に、その方の様子にあたる方がいらっしゃると情報を得ている。

三浦 ◇やはり事前に行う疑似体験とプレと介助方法を知るという意見が有りましたが、適切に疑似体験を行うということは大事。よくあるのが、目隠し歩行で怖がってしまうことで、実際に障害者の方は怖がってはいない。危険な目には合われているが、いきなり失明した方とは違う。その点は的確に情報を与えつつ、車椅子に乗っている方もどういう状態で使用しているかなどにより介助方法が違うわけでそういうことがあると思う。

船戸 ◇皆さんがおっしゃていたところは、障害者との接点をもって、絡めるか、援助がどうできるかということで、まち歩き本番の時は当事者の方と一緒で考えざるをえない状況であるが、プレの場合に介護技術や、疑似体験をあまりそこに作ってしまうと、大変だとか障害ってこんなところなのかと思ってしまうことが危険だと思う。

むしろ疑似体験にあまり力を入れないで行うほうがいいとも思う。そこがうまくいくと次の段階につながる。障害者の方がいたらどうしようと思い、辛らつな質問しても答えてくれるわけで、こうなんだと思うことを大事にしたい。障害者の方にどういうことができるのだろうということを感じてもらうことが大切である。内容に関して１５グループがすべて同じ経験をすることになるのか。プレと違うコースを本番で考えているようであるが、どういうことかお聞きしたい。

田熊 ◇担任はいろいろなことを体験させたいということで、商店街や公民館そこから駅までの道は整っているところやそうでないところがあり、年寄、白状、車椅子を各々のコースに分けて、5コースで歩くということである。プレと違う道と事前のまちのチェックを、今度は障害者の方と歩いて気づくところが違うことを体験させたいと言う考えである。

三浦 ◇１5グループは数が多いと思うが、担任の先生は当日どういう動きをするか。

田熊 ◇全体を把握するので、調整役となる、地域の方のご協力を期待している。

小原 ◇それについては地域の参加する方に、介助も含めて事前にどういうことをするか、意思統一が必要であると考えている。

船戸 ◇それであれば、地域の方にプレにも関わってもらい、事前に少しでも体験してもらったほうがいいと思う。

小原 ◇担任は一人で大変であるので、各グループに近隣自治会、民生委員が参加してもらうような人数を考えている。

<発表会について>

三浦 ◇発表会の場所については、コムナーレ第１５集会所、１３２名定員の場所であり、19 日はパルコオープンから二度目の週末となる。来客は多いと思う、市民活動サポートセンター、オープニンイベントのプログラムに組み入れた。

当日は部会だけでなく、協議会の委員の方にも周知してもらうよう事務局へ依頼している。かなり人も多く子供たちも張り切るのではないか。

徳永 ◇発表に関して、昨年はグループごとであり、見る時にどこを見ていいかわからなかった。

発表内容の凸凹も激しかった。たとえば、４年生の全ての車椅子グループをまとめるとか、すりあわせをするとか、発表の方法にひと工夫あったほうが良いのではないか。担任の先生のお考えも有るがどうでしょうか。

田熊 ◇全体を一枚で発表する方法と、各グループでの発表といろいろと方法があるが、最近はこのグループごとの発表が主流となっており、細かく児童の個性や考え方が出ると思う。

守富 ◇まとめると言うことについては難しくはないが、少人数での取り組みで、それが自己完結として最後の発表まで行って知ることの満足感があると思う。4年生ではアイデアが突拍子無いアイデアにつながっていたりするが、活動を通した満足感があったかどうかが大切で、効率のよさとは結びつかないかもしれない。

三浦 ◇高校、大学生と接触する機会があるが、一人一人の学力差は違うが、一人一人が伸びれば良いと考えるので、全部同じにする必要は無い。高砂小方式で行うのが、いっぺん突拍子無いが、大人の発想に無いものがあり、おもしろかったと思う。学校のほうで考える工夫、なるべく参加した児童が自分の声では発表するのは大事だと思う。そういったことも含め工夫をしていってもらいたい。

田熊 ◇学校としては、「総合の学習」の時間として自分たちで福祉を考えて、福祉をどう学ぶかを行なったが、今回このような係わり合いで援助をしていただき、今はお返しが出来ないが、子供たちにはいいものがもらえると実感しており、将来について必ずプラスとなると思っている。

大橋 ◇前の話しとなってしまうが、地域ぐるみで、この事業がどうだったんだと考える場、振り返る場が

必要であり、モデルとなりえる。大事なのは障害者疑似体験での感想がかわいそうとなることではなく、当事者が生活する権利であると認識させることが必要。
初年度でのこの事業がどうだったんだろうかと考えて、地域グルにで考えていくことで今回が有りそれをまた次に引き続いていくことは大切である。

小原 ◇この地区で行うために、地域が考えることを表に出さないとだめであり、この事業をきっかけにして、見守り、身を向けることを学ぶいい機会である思うし、そこを中心に絞っていき、他の地域にも見てもらって広げたいと思う。

三浦 ◇発表の時に、地域の人からも意見を出してもらいたいし、大橋さんもおっしゃっていたが、来年に向けて発展的に進んでいくことが必要である。振り返りながら評価することで次につなげていきたい。平日ですが、大宮小の方は当日はおいでいただけますか

大宮小◇当日は平日ですが、事業を見ておいたほうがいいと思うし調整をとって是非出席したいと思う。

三浦 ◇それと地域で協力してくれる方がいらっしゃるのであれば、当日も参加して見てもらった方がいいと思う。

国島 ◇地域の方が参加して、意義があるし、かかわる大人側にも効果がある。子供たち側から見て地域がかかわっていることをどういう風に思うか、理解するのか、それにはお考えがあるのでしょうか。

田熊 ◇地域との関わりあいは、年に二、三回授業にかかわってもらっており、顔見知りとなっている。学校としては、今後も総合学習の時間として関わることを大切にしたい。

守富 ◇地域の方が一緒に動いており関わっている姿が子供に見えていると、やがて地域の方になるわけですから、こうした体験を積むことで子どもが大人になったときに、また地域に返してくれる地域の人になって帰ってくるということが必要ではないでしょうか。

河合 ◇総合学習の授業の生徒がよく手話をしているようで、その感想を送ってくるのを読むと、実に素直に感想を書いている。感受性が素直である。子供が小さい時から、障害者が存在することを自分の目で見て、肌で感じていることの経験をすることが何より大切であると思う。

＜まち歩きの実施体制について＞

三浦 ◇プレ体験には事務局案では、ほとんど参加しなくても良いことになっているが、先ほどの議論の中で、正式な教えについては、社協・事業団の方のかかわりが必要となるため、そのほか部会員の参加もお願いしたいところです。3日間できる方の参加をお願いしたい。地域からも協力体制をお願いしたい。

小原 ◇地域関係者として、地区社協、隣接自治会、育成会その中の民生委員も声をかけているので、確認をしていきたい。

田熊 ◇地域の方の障害者の参加を見込んで話しを進めているが、実際参加することができる方がいないかもしれない。

三浦 ◇民生委員の方からの情報があると、障害者や高齢者の方が把握し易く思うが、もしくは重ねてお声がけができればいい。

柴崎 ◇本番の人数が多いと一部の方しか話せない。時間が無く、歩くとき以外に落ち着いて皆さんの話を聞くと活きると思うが。事前に何回かふれあいがあったほうが良いと思う、生活している部分の内容を把握できればいい。

船戸 ◇障害者と同じ方がプレにも着ていただくと覚えやすいと思うが、障害者のだれだれと覚えてもらうより、人とのかかわりとして覚えてもらうのが大事で、できるだけプレと当日参加してくれる方が一緒であったほうが良い。

長根 ◇やはり同じで、何回かあって顔を覚えたもらった方が話しやすいし、うちとけ易いと良いと思う。

【閉会】

＜今後の予定＞

事務局◇プレまち歩き、当日、発表会の出欠の確認予定。
◇第2期2回目福祉のまちづくり推進協議会にて発表予定。